防衛装備庁技術シンポジウム2024

生成AIが切り開く次世代自動運転技術

2024/11/12 チューリング株式会社 取締役 青木 俊介



創業 2021年 8月 20日

代表取締役 山本 一成

累計調達額 60億円

社員数 45名

ミッション 完全自動運転を実現する

事業内容 自動運転システムの開発・販売





Co-Founder, 取締役

青木 俊介

米・カーネギーメロン大学でPhD取得。 **米国ARPA-E傘下での自動運転プロジェクト**を牽引。 自動運転分野で40本超の学術論文を出版。 名古屋大学 客員准教授。



自動運転と国防

自動運転は元々最先端軍事技術。民生利用も進む

- 米国DARPA (国防高等研究計画局)主体のDARPA Challenge が歴史的転換点
- 青木もFort Myer(陸軍ワシントン軍管区)と共同開発
- 「自動車OS」が全て外国製は国防的に好ましくない。現在スマホのOSを海外に握られているが、いよいよ「暗黙の植民地化」が進む
- このため米・中・欧では新興OEM・自動車ソフトウェア産業の 刷新が進む







完全自動運転を実現する

Turingが目指すのは人類未到のレベル5"完全自動運転"。 人間の運転を完全に代替するシステムを実現することを目指す。

運転の主体	自動運転レベル	定義	
システム	レベル5	あらゆる条件下でシステムが運転タスクを実施 (完全自動運転)	技術的なブレイクスルーが必要
	レベル4	特定条件・地域でシステムが運転を代替 (無人運転)	アメリカや中国を中心に稼働が開始
人間	レベル3	特定条件・地域でシステムが運転を代替 (要ドライバー)	すでに販売され、 世の中に普及し始めている
	レベル2	アクセル/ブレーキとハンドル制御を補助	
	レベル1	アクセル/ブレーキ or ハンドル制御のいずれかを補助	
	レベル0	自動運転なし	

自動運転技術の主流派はLiDARとHDマップを組み合わせる方式

Google傘下Waymoに代表される様に従来の自動運転技術の主流は、

LiDARセンサと事前取得したHDマップ情報に ルールベースを組み合わせる仕組み



既存の技術ではロングテールに対応できない

交通環境には頻度が少なく、多様で困難な状況が存在する(=ロングテール)。

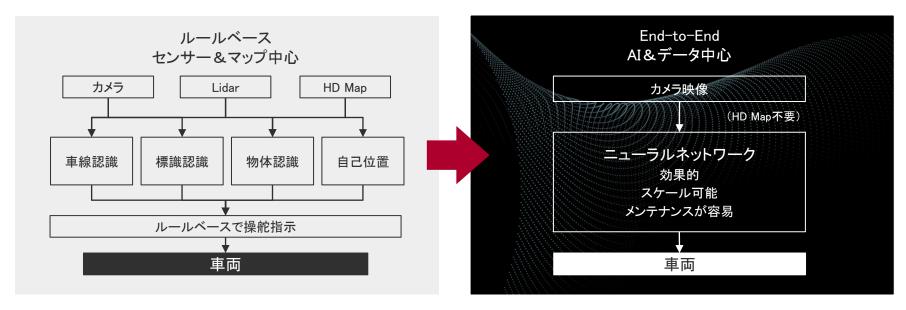
人間が全ての状況を網羅的にルールで定義することは不可能であり、 現在主流のルールベースでは「完全自動運転」の達成は困難。





自動運転技術の主流はEnd-to-End(E2E)モデルへ急速にシフトチェンジ

人間に定義されたルールではなく、AIがEnd-to-Endで制御する方式へ



















生成AIがE2E自動運転を強化する

運転能力を備えたAIが人間の常識を身に付けることでより人間に近い自動運転に



生成AI "Heron"

Heronを活用することで、

人間のような状況判断能力を備えた自動運転が可能に



Heronのデモページで実際に推論をした例



テックブログで開発の詳細を発信中▶https://zenn.dev/turing_motors/articles/00df893a5e17b6

シミュレーション環境と運転タスク

シミュレータを用いてシーンを作成する試みは多いがSim2Real ギャップが課題

シミュレータ

実環境



CARLA Simulator
https://carla.org/



nuSceneshttps://www.nuscenes.org/nuscenes

シミュレータと現実の見た目の差・物体出現頻度の差・エージェント間相互作用の挙動差

シミュレーション環境と運転タスク

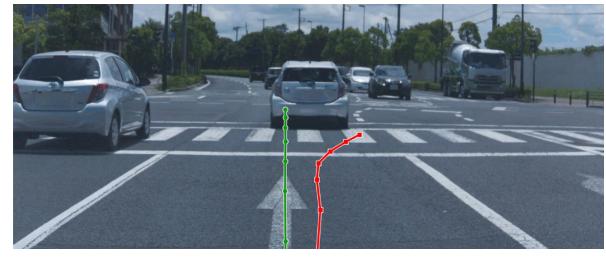
生成的世界モデル「Terra」





シミュレーション環境と運転タスク

条件を与えることも可能 直進 or 右折



AIが生成した世界で、 AIによるエージェントの検証



ご清聴ありがとうございました

チューリング株式会社 取締役 青木 俊介